

ユネスコスクール通信 No.1

宮城教育大学国際理解教育研究センター 2015年1月発行

宮城教育大学では、今年度から文部科学省より「グローバル人材の育成のためのESDの推進事業」の採択を受け、東北地方の多様なステークホルダーと連携して、「ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム」の構築を進めているところです。その一環として、「ユネスコスクール通信」を発行し、ESDに関する国内外の最新情報と東北地方のESD/ユネスコスクールの優れた実践を発信・共有して東北地区のESDの取組の質的な向上に寄与したいと考えております。

第1回目は、昨年11月に名古屋で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」で世界に向けて発信された「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)と今年度の宮城教育大学・東北地区ユネスコスクール実践大賞を受賞した気仙沼市立唐桑幼稚園のESDの実践を紹介します。

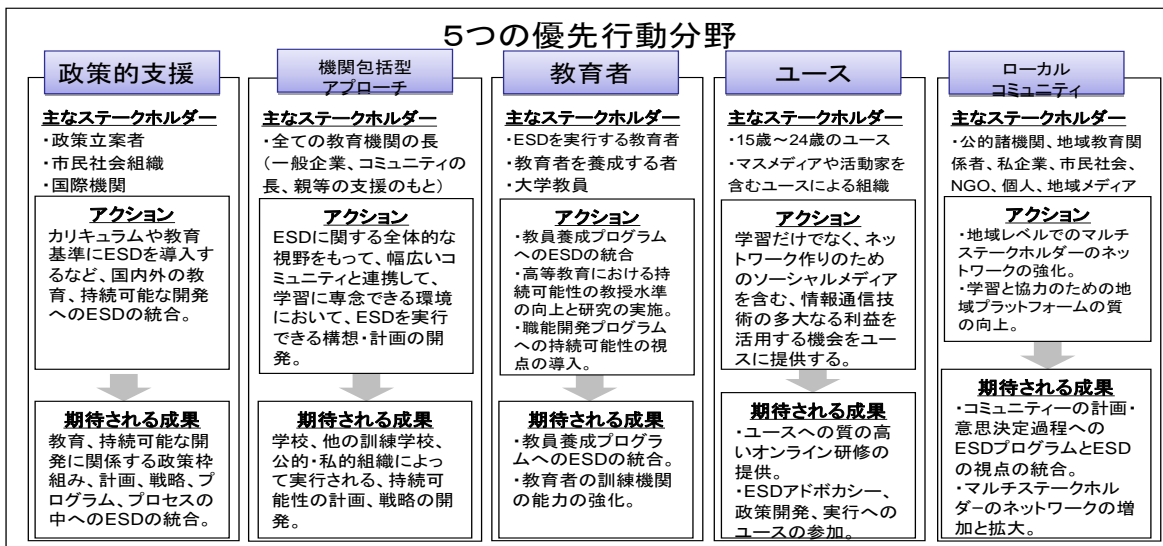
◆「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)とは?

「グローバル・アクション・プログラム」(Global Action Programme on ESD=GAP)は、「国連・持続可能な開発のための10年」(DESD)が2014年で終了するにあたって、DESD後のESDの更なる推進・拡大をめざしてUNESCOが提案したものです。2013年の第37回ユネスコ総会で採択され、昨年11月に名古屋で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」で世界各国に向けて発信されるとともに、12月の第69回国連総会にも提案され決議されました。

GAPの全体目標は、持続可能な開発を加速するために、教育・学習の全ての段階・分野で行動を起こし強化することにあります。その実現のために、GAPでは、以下の5つの「優先行動分野」を示し、各国及び各ステークホルダー(実践者)にコミットメントを促しています。

GAPは、DESDの後継プログラムとして今後のESD推進の方向性や枠組みを示すものです。

グローバル・アクション・プログラム(GAP)ロードマップ



平成26年度 気仙沼市立唐桑幼稚園のESDの取り組み

気仙沼市立唐桑幼稚園

- 1 研究テーマ「からくわ いちばん」ー唐桑のすてきなところを探そう・遊ぼうー
- 2 研究仮説 次のような取り組みをすれば、園児は唐桑のよさに気づき、その環境を大切にしていこうとする態度や意欲を育むであろう。
 - (1)唐桑のよいところを見に行き観察・体験する。
 - (2)園に帰って作ったり、描いたり、演奏したり、話し合って再現してみる。
- 3 研究の概要

○「いいものみつけマップ」

散歩で見つけた唐桑の様子を地図にした。ザリガニ池、タンポポの丘、カバンの木等と名付けた。



○「唐桑漁協加工センター交流」

- (1)唐桑の海にはカキ、ウニ、ホタテ、ホヤ等たくさんの生き物がすんでいる。
- (2)唐桑の海はとても栄養がある。
- (3)唐桑の人たちは親切だ。



○「宿うちばやしの伝承」

うちばやしを見て、(1)やってみたい。(2)太鼓を作ってみたい。(3)運動会で発表したい。



○「体験で学んだことを再現する」

みんなでシェアする。ウニやカキやホタテや魚などを園で再現してみる。太鼓を作る。



4 研究の成果

- (1) 唐桑の自然や伝統芸能にふれ、それらを大事にしていこうとする意欲や態度が育まれた。例えば、「海は汚さないようにしよう」「ゴミは捨てないように」「弁当は残さず食べる」等の発言が増えてきた。
- (2) 自分たちで作る、演奏する、発表する、話し合うことで、進んで周りの環境を大事にしていこう、育てていこうとする態度が見られるようになった。例えば、進んで太鼓演奏をしたり、今まで以上に飼っている生き物の世話をしたりするようになった。

5 今後の課題

園児の表現力を育むことも平行して行っていく必要性を感じた。